

和歌山県日高川層群に発達する過去のプレート境界断層の構造地質学的・鉱物学的特徴
Structural and mineralogical characteristics of an ancient plate boundary fault in the
Hidakagawa Formation, Kii Peninsula, Japan

*小川 文彰¹、加藤 尚希¹、土野池 直哉¹、朝山 暁¹、金木 俊也¹、中野 友貴¹、廣野 哲朗¹

*Takeaki Ogawa¹, Naoki Kato¹, Naoya Tonoike¹, Satoru Asayama¹, Shunya Kaneki¹, Yuki Nakano¹, Tetsuro Hirono¹

1.大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻

1.Department of Earth and Space Science, Graduate School of Science, Osaka University

プレート沈み込み巨大地震の滑り挙動を解明するために、四国四万十帯を初め、多くの付加体にて、そこに発達する過去のプレート境界断層の様々な調査が実施されている。しかし、紀伊半島西岸では、層序学的・変形構造区分などの調査は実施されているが、断層岩の分析は未だ実施されていない。そこで、本研究では和歌山県四万十帯日高川層群三尾地域に分布するメランジユニットに着目し、フィールド現地での地質図と変形構造区分図の作成、断層試料の微小構造観察と鉱物組成定量分析を実施した。

その結果、露頭にて高い直線性を持つ断層の滑り面において、鉱物粒子の細粒化、葉状構造、溶融の痕跡、鉱物組成の有意な変化が確認された。これらより、この滑り面は非常に強い剪断と高温を経験していると考えられる。周囲の母岩の最高履歴温度の情報についてはまだ分析中であるため、断層の温度上昇量を見積もることは出来ないが、今後は、分析を進め、地震時の滑りパラメータの定量的推定を目指したい。

キーワード：プレート境界断層、付加体、南海トラフ

Keywords: plate boundary fault, accretionary prism, Nankai trough